

思いやりについて考えよう 資料：「絵はがきと切手」

坂本 哲彦

提案

道徳の時間は、自分を見つめる時間です。ならば、授業になくってはならないのは「自分を見つめるための観点」です。自分のどこがどうなのかを計る「ものさし」になるものです。これを「自己評価観点」と呼ぶことにしましょう。「自己評価観点」は、一層深まった道徳的価値観と言うこともできます。

そして、その「自己評価観点をみんなで見つけ出し、それに照らして自分はどうなのか、また、そんな自分をどう考えるのか」をクラスのみんで行うのが、道徳の時間だと捉えることにします。

このような道徳授業を実現するためには「発問」の工夫が必要です。「発問」は、授業構成や授業目的を実現・達成するための「最大の手だて」だからです。

そこで、今回提案するのは、次です。

みんなで自己評価観点を設定し、自分を見つめさせるための「発問の在り方」

自己評価観点

様々な種類があると考えられます。例えば、内容項目「思いやり・親切」を例に挙げるならば、

「相手のことを思いやり、親切にすることは大切」だけど、自分はどうかな？

「相手が不愉快になったとしても、相手にとってよいと考えるなら、率直に注意することも親切」だけど、自分の場合はどうかな？

「相手が不愉快になるのであれば、率直に注意することは少し控え、相手の失敗を黙って補ってあげることも親切」だけど、自分の場合はどうかな？

「相手が不愉快になるようなことを伝えるにしても、あえて伝えないにしても、相手の気持ちを十分考えてから行動することが親切」であるが、自分はどうかな？

などのように、「人物を対象化して考えさせる発問」です。人物と自分の間に距離を置かせます。高学年の方に向いている発問です。

(1)(2)のいずれの問い方をしたとしても、出された一人一人の価値観を類別、整理することが大切です。そして、そこで一旦立ち止まり、個々の価値観を一人一人に確認することによって、一人一人の今もっている価値観を捉えさせます。

なお、一人一人の考え方を類別・整理し、それぞれのまとまりを明確にすることは、子どもたちの思考を活性化させる上で重要です。どれとどの考えがよく似ているのか、そして、どれが対照的なのかななどを、それぞれの考えにラベリングしたり、ナンバリングしたりして、子どもたちに捉えやすくします。

2 発問B・・・今もっている価値観を一層深め、自己評価観点を設定する発問

Aで出された価値観を比較検討することで、観点を設定します。二つの問い方があります。

(1) 相違点に着目させる発問

「より善いのは、どれでしょうか。そして、それはなぜですか。」や「最も好きなのはどれですか。理由を教えてください。」などのように「どれが最も」で検討します。「」については、例に挙げた「善悪」や「好悪」以外にも、「当為(べきである)」や「経験の有無」「実現可能性」などがあります。

また、「相手(他者)から見て最も」は、どれでしょうか。」のように、検討する視点を移動させるのも有効です。立場を変えて考えさせるということです。

(2) 共通点に着目させる発問

「どの考えにも共通している気持ちは何だろうか。」や「どの考えも生かすとすればどうすればいいだろうか。」などです。様々な価値観を支えるベースとなる考え方、行動の仕方を明確にさせる機能をもった発問のことです。

このように(1)や(2)によってはっきりさせた「最も」な考え」や「それぞれに共通した考え」が、一層深まった道徳的価値観であり、次の自己評価活動で使われる自己評価観点となります。

3 発問C・・・設定した観点から自己を見つめさせる発問

「(自己評価観点)が大切であることに気付きましたね。みなさんは、(主人公のように、)したこと(思ったこと)はありませんか。そして、そんな自分についてどう思いますか。」のように自分の中の自己評価観点達成の事実(態度、行為、

心情等)を想起させ、自己を振り返らせます。

発問Cにおいて、不十分な事実に気付かせ、「まだまだ自分はだめだなあ。」と反省させることを否定はしません。が、同じ事実でも「今は十分とは言えないかも知れないけれども、少しずつよい方向に向けられる事実」として捉えさせる方が重要だと考えています。

「分かっているけど、できない自分」に気付かせるのではなく、「少しできていた(少しならできそう)けど、その意味やよさに気付いていなかった自分」に気付かせることが大切だと言うことです。その上で、その価値観や心根、行為のよさを高めさせるようにするのです。

指導案

1 ねらい

料金不足を伝えるかどうかについて話し合うことを通して、相手を思いやり親切にすることを意味を捉え、自分をみつめることができるようにする。

2 展開の概要

学 習 活 動 ・ 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 自分が親切かどうか振り返る。 ・ 価値への気付き	・ 「思いやり親切」の大原則から振り返らせる。 【自己評価活動1】
2 料金不足の時のきまりを知り、読み物資料を聞く。	・ 場面絵やキーセンテンスを端的に添付する。 ・ 主体的判断保障のため、最終場面は提示しない。
3 料金不足を伝えるか、伝えないか自分の考えを発表し、話し合う。 ・ 料金不足を伝える理由 ・ 料金不足を伝えない理由 ・ それぞれの理由の比較検討 ・ 自己評価観点	・ 母親の言い分、兄の言い分を十分理解させた後、一人ひとりの考えをもたせる。 ・ それぞれを類別(ナンバリング・ラベリング)することで、理由を明確に把握させる。 ・ 相違点、または共通点に着目させることで、新たな価値観を捉えさせる。【自己評価観点設定】
4 観点から自分を振り返る。	・ 自分のよさに着目させる。【自己評価活動2】